

[15] 哲学論文集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/27553>

出版情報：哲学論文集. 15, 1979-09-20. 九州大学哲学会
バージョン：
権利関係：

五十三年度大会報告

○春季例会

六月十日九大文学部会議室において開催され、研究発表の題目と発表者はつぎの通りです。

一 論証・証明と「知ること」について——アリストテレスの「論証知」とゲーデルの証明に即して——田畑博敏

二 死をめぐる一考察——とくにパスカルとモンテーニュの場合——村上伸子

三 『省察』における「哲学者」の立場——今村茂

田畑氏は昭和五十四年九大文学部大学院博士課程（哲学）を修了され、現在は九大文学部哲学科助手として勤務しております。

村上氏は昭和五十三年九大文学部大学院博士課程（倫理学）を中退され、現在は九大文学部倫理学科助手として勤務しております。

今村氏は昭和二十四年九大文学部哲学科を卒業され、現在は福岡大学に勤務しております。

○秋季大会

九月三十日九大文学部会議室において開催され、研究発表の題目と発表者はつぎの通りです。

一 将来の生——アウグスチヌス幸福論の一考察——上野正二

二 指示と存在——篠原駿一郎

三 行為の概念について

森 俊 洋

上野氏は昭和五十四年九大文学部大学院博士課程（哲学）を修了され、現在は日本学術振興会奨励研究員として研究を続けておられます。

篠原氏は昭和四十六年九大文学部大学院修士課程（哲学）を中退され、現在は東亜大学に勤務しておられます。森氏は昭和四十四年九大文学部大学院博士課程（哲学）を中退され、現在は九州大学に勤務しておられます。

なお、大会発表要旨は、村上・今村・篠原・森の各氏が辞退されましたので、今回は田畑・上野氏の要旨を掲載します。